

# 臨床研究への協力をお願い

## 日本人における骨量減少に対する乾癬性関節炎の影響とそのメカニズム解析

乾癬性関節炎は皮膚の病気である乾癬（かんせん）に、腫れと痛みを伴う関節炎を合併した病気です。原因は不明ですが、もともと発症しやすい体質の人に、さまざまな外からの要因が加わって発症すると考えられています。自己の免疫系が自分自身を攻撃する自己免疫疾患、もしくは自然免疫が病態の中心である自己炎症性症候群と考えられています。

皮膚症状に対する治療に加え、関節症状（痛みや腫れ、こわばり）を最小限に抑えることが治療の目標となります。特に、関節症状を抑えることは、将来にわたって関節機能を維持し、日常生活に影響を与えないようにする為に、非常に重要です。

最近の研究では、乾癬にり患している患者さんにおいて、骨減少症や骨粗しょう症の有病率が高いことが高いことが明らかになってきています。しかし、その仕組みはいまだ明らかになっていません。

そこで、今回骨密度減少に対する乾癬性関節炎の影響を検討して、より良い治療法の確立を目指していこうと考え、本臨床研究を計画し皆様にご理解とご協力をお願いしたいと思っています。

### 「研究の実施方法」

本臨床研究では、日常診療で得られた臨床データを集計し、通常の診察で行う採血の残血液を用います。患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。

また研究で扱う情報は氏名・住所・電話番号などの個人的な情報を切り離して、個人が特定されない形で厳重に扱います。残血液は検査実施後は、適切に廃棄いたします。

皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する資料を閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望される方は、下記の連絡先までご連絡ください。

連絡先：〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町 2-1

☎ 0721-53-5761（代表）

国立病院機構 大阪南医療センター リウマチ・膠原病・アレルギー科  
辻 成佳